二年を契る絢爛の機を連りまうおうしゅんぶ

ども見ずや穹

北震

ラが三年を知 く星斗永久に く星斗永久に シェンシート

去りては

男ぉ啓ュ楡ゅ希゚廻ォあの 示い林ぃ望ぁり あ かんげき かりもと で早きその ではや の美術の 美術の 美術の 美術の ままる 子の眸に涙ありの翳を泛べつついかはす。盃に の美酒 その 三条とせ 年

n

狂る降き情は自じ少し老さ

寝ね蔭が

若が北ほ 辰し

> 流る星間光が結ず 転る屑が明りび \tilde{O} をとして 友生が集い上 我が寮 我ゎ 寮み 来さ Ù

苦むす青史誇りなん るなまとしてその。 は、しっな、ひった十年の でくせいしっな。 とは、してもなった十年の

建た先は鳴ぁ て 人が呼ぁ

し 自じ

し自由と自治のここに要りて

0 城点

つりて

だっぽうぼう

の 大 変 だいこう

野や

宍戸 村 昌 五. 郎 夫 君 君 作 作 ## 歌